

CHECK!!!



**ハコネウツギ**  
全国に分布する落葉低木。白い花がだんだん赤紫色に変化するため華やかで、庭木によく用いられる。



**ヤマボウシ**  
落葉高木。枝先から垂直に花柄を立て、小さな集合花を囲む白い総苞の様が法師を連想させることから「山法師」の名となる。



**サワオグルマ**  
日当たりのよい湿った所に群生するキク科の多年草。すくっと伸びた茎に黄色い花をつける。



**ナルコユリ**  
晩春から初夏にかけて、山地の林内に生える多年草。草の脇から出る花柄は枝分れし、その先に緑白色の長さ2cmくらいの筒状の花をつける。この様子を鳴子に見立てて名前がある。



**スイカズラ**  
日当たりのよい林縁などで見かける蔓性の植物。白い花が後に黄色くなるため金銀花とも呼ばれる。甘い芳香がある。



**ノイバラ**  
山野に普通に見られる樹高1mほどの落葉低木。芳香ある白い花を多数つける。花の直径は約2cm、花弁は5個。

ウォーキングメモ

白岳公園のキャンプ場と、ギャラリー&カフェ「風の高原」

白岳の裾に広がる「白岳高原」は、白岳池を中心に国民保養地として整備されていて、オートキャンプ場をはじめ、テントサイトが設置されている。湖には浮橋もあって、家族連れで楽しめるスポットだ。管理棟を兼ねたギャラリー&カフェ「風の高原」で食事を楽しむ。利用のお申込み問い合わせは、0956・66・9334へ。



L 眼下に、白岳池と白岳公園のキャンプ場が望める。晴れた日には九十九島や五島列島が見える眺望だ。



M ぐると回り込んで林の中の道を下る。



K 岩を登り切ると、思わず手を広げたいくなる気分。



N 別のルートで、春の散策を楽しみながら下る。



I ちょっとしたロッククライミングを楽しんだ。



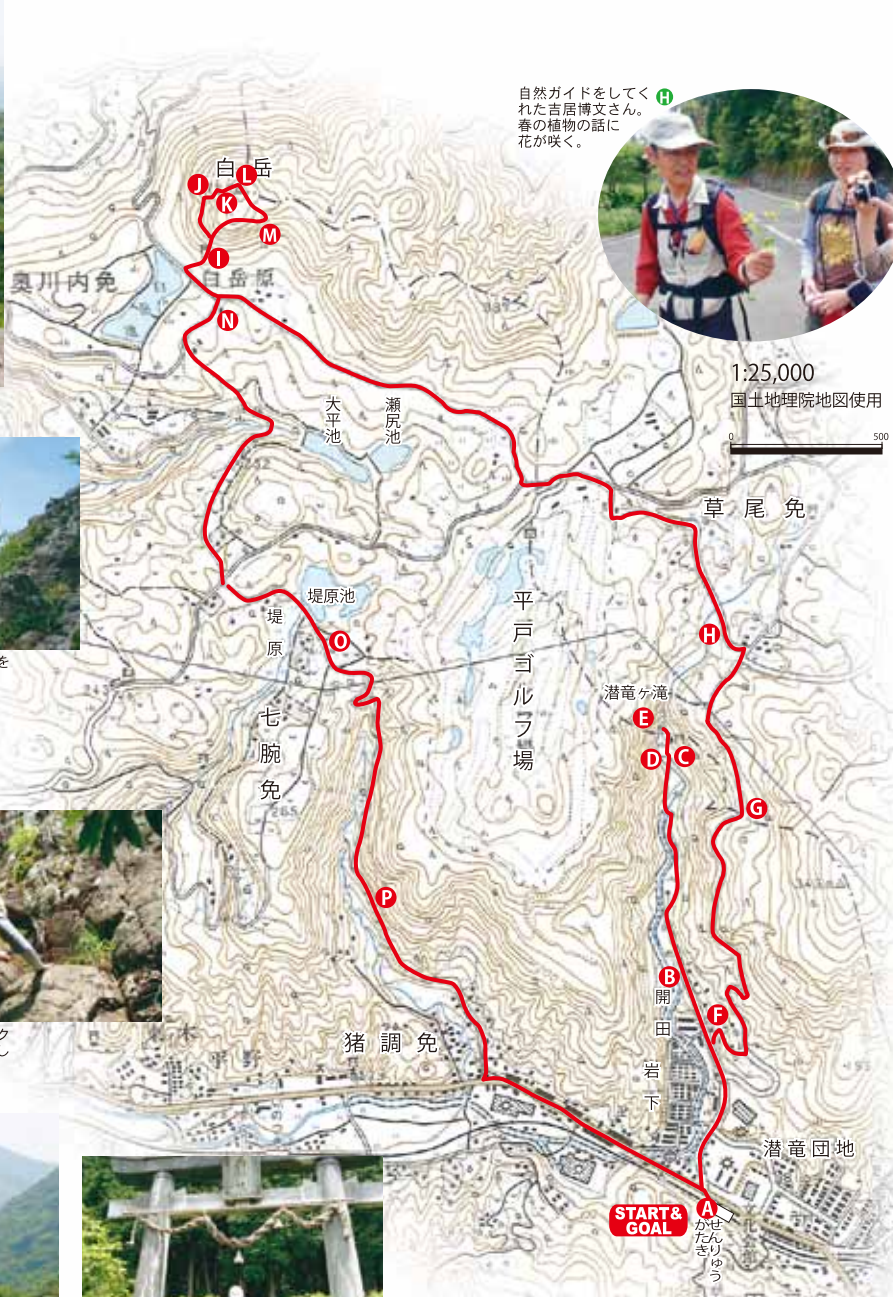
O 堤原池のほとりはのびやかな風景だ。



P 一気に坂道を下るのだが、舗装されていて足に負担を覚える。



1 白岳神社の鳥居を潜って、やっと本格的な山登りとなる。



H 自然ガイドをしてくれた吉居博文さん。春の植物の話に花が咲く。



1:25,000  
国土地理院地図使用

「潜竜ヶ滝」を見て、白岳に登る。  
平戸八景は江戸時代末期に松浦藩内の景勝地を指定したものだ。今日では訪れる人は少ない。そこで今回のウォーキングは平戸八景の一つ「潜竜ヶ滝」と、白岳高原の景勝地「白岳」(373m)を訪ねることとした。  
佐世保駅発8時8分の松浦鉄道に乗り、9時16分に潜竜ヶ滝駅到着。白亜の駅舎が奇妙にモダンだ。潜竜ヶ滝駅から歩きます。谷に吸い寄せられるように続く一本道を約30分歩く。やがて赤い太鼓橋があった。さらに奥に続く階段を上ると、緑深い林の中から滝の音が響いてきた。  
「潜竜ヶ滝」は落差25mの見事な滝だ。豊富な水量で、飛沫が空中に流れて涼しい。夏の暑いときは最適だろう。旧名所だが、なんだか新発見した気分。  
滝は谷の奥にあるから、もと来た道を引き返すしかない。地図のF地点まで戻ってV字に曲がり、ゆるやかに上る舗装道を進む。花を楽しみながら歩くと、やがて白岳高原の田園風景が広がる。肥沃な高原では新たな特産品「黒大豆」づくりや有機農業が行われている。  
険しい岩肌を剥き出した「白岳」が見えた。ここから山道だ。参道を進むと神社の祠があった。左に進んで、切り立った岩肌を登ることに。ちよっぴりスリリング。  
北松一带は新生代第三紀の砂岩層に第四紀の溶岩台地が被さったもので、浸蝕によって多様な景観を見せる。その岩肌を汗を流しながら登り切ると、背後に白岳高原の穏やかな風景が広がる。緑の中に白岳池が光っていた。  
帰りは頂上を回り込んで林の中を下る。白岳公園に下りて帰路はルートを変え、堤原池ほとりの散策を楽しみながら行く。潜竜ヶ滝駅15時11分発の松浦鉄道に間に合った。



C 沢に架かる赤い太鼓橋を渡ると公園だ。



F 20分ほど道を戻り、V字に折れて上の道に。



G 坂道を上って、谷の上を続く道を進む。春の花があちこちに咲き乱れる。



A モダンな建物のMR「潜竜ヶ滝駅」から出発。



B 舗装道が真っすぐ谷の奥へと続く。



D 鳥居を潜って階段を上って行くと、沢音が涼しい女滝がある。



E 男滝の高さは25m。滝坪は6mほど。荘厳な雰囲気である。

